

2022年2月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年7月9日
上場取引所 東

上場会社名 株式会社ヤマザワ
 コード番号 9993 URL <https://yamazawa.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 古山 利昭
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長兼人事教育部部長 (氏名) 工藤 和久 TEL 023-631-2211
 四半期報告書提出予定日 2021年7月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年2月期第1四半期の連結業績 (2021年3月1日～2021年5月31日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年2月期第1四半期	27,167	△6.1	538	△42.6	547	△42.5	355	△45.1
2021年2月期第1四半期	28,934	7.4	938	506.2	952	525.3	648	679.8

(注) 包括利益 2022年2月期第1四半期 340百万円 (△48.8%) 2021年2月期第1四半期 664百万円 (1,162.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年2月期第1四半期	32.66	32.63
2021年2月期第1四半期	59.48	59.43

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年2月期第1四半期	50,059	28,924	57.7
2021年2月期	50,902	28,732	56.4

(参考) 自己資本 2022年2月期第1四半期 28,909百万円 2021年2月期 28,716百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年2月期	—	13.50	—	13.50	27.00
2022年2月期	—				
2022年2月期 (予想)		13.50	—	13.50	27.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年2月期の連結業績予想 (2021年3月1日～2022年2月28日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	56,000	△2.9	700	△52.6	720	△51.6	400	△52.3	36.69
通期	110,000	△2.6	1,200	△51.2	1,250	△48.1	500	△43.1	45.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年2月期1Q	10,960,825株	2021年2月期	10,960,825株
② 期末自己株式数	2022年2月期1Q	61,046株	2021年2月期	61,046株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年2月期1Q	10,899,779株	2021年2月期1Q	10,899,935株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注記事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が続くなか、3度目の緊急事態宣言の発令及びまん延防止等重点措置の適用により、経済活動が著しく冷え込み、非常に厳しい状況となりました。接種機会の拡大によりワクチン普及への動きがみられるものの、国民の早期接種完了は難しい見通しで、さらには変異ウイルスによる感染再拡大の懸念もあり、景気の先行きについては依然予断を許さない状況が続いております。

当社グループが主に属する食品小売業界におきましては、依然として消費者の節約志向、内食・まとめ買い志向が根強い一方、世帯収入の減少や消費者物価の上昇により、厳しい家計状況と消費減退が想定され、前年と同様の収益確保が難しい状況となっております。

このような環境の中、当社グループにおきましては、「毎日の生活に必要な商品を新鮮で美味しく、安く提供する事により、食生活を豊かにし地域社会に貢献する」という経営理念のもと、お客様と従業員の安全を最優先に、引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じながら、地域のお客様の生活を支える商品の供給、提供に努めてまいりました。そのうえで、「地域のお客様に繰り返しご来店していただける店づくり」に向け、『わくわくするよい店つくろう』を本年度のスローガンに掲げ、全社一丸となって各施策の実行及び検証を行ってまいりました。この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は271億67百万円（前年同期比6.1%減）、営業利益は5億38百万円（同42.6%減）、経常利益は5億47百万円（同42.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億55百万円（同45.1%減）となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

スーパーマーケット事業におきましては、営業面におきまして、お客様の来店動機になるような魅力的な店づくりのため、既存店の販売力強化に注力いたしました。バイヤーこだわりの商品・企画を、テーマに沿った提案・売場づくりを全店で徹底し販売することで、売上と利益の最大化に取り組みました。具体的には、「今週の一品」と称して、週単位・単品での売込み企画を実施し、また、旬・トレンドに対応した部門横断的な企画設定により、購買意欲をかきたてる売場づくりに取り組みました。あわせて、売場のゾーン化（これまでの部門ごとの商品展開から、お客様のニーズ・食シーンに合わせた部門横断的な集合陳列を行う事）を推進し、よりお客様が買いやすく、快適にお買物をいただけるよう努めました。集客・価格戦略といたしましては、集客対策として、平日強化のためのポイント販促を継続実施、また、価格対策として、単品ディスカウントに偏らないバランスのとれた価格設定に努めました。2021年3月より加工食品や日用品を中心に商品を厳選した「スペシャルプライス」・「パワープライス」・「ロングランプライス」といった期間毎に異なるお買い得商品を販売し、買上点数増を図りました。さらに、当社グループ独自の電子マネー機能付きポイントカード「にこかカード」の利用拡大のため、チャージ機利用による特典付与等の販促活動を継続的に実施いたしました。

また、店舗へのご来店が困難なお客様の利便性向上を目的とし、販売パートナー（個人事業主）が商品を車に積み込み、依頼されたお客様のご自宅まで伺い、お買物をいただくサービスである、移動スーパー「とくし丸」事業も引き続きご好評を得ており、株式会社ヤマザワが山形県内におきまして4台、よねや商事株式会社が秋田県内におきまして7台稼働しております。引き続きエリアを拡大して運行を随時増やしていく予定です。

設備投資といたしましては、株式会社ヤマザワにおきまして、2021年5月に「中野栄店」（宮城県仙台市）を、既存店舗の「高砂店」（宮城県仙台市）を閉店（2020年7月）し、名称を変更して同敷地へ新設いたしました。売場面積は300坪と、旧店舗比6割程度に縮小いたしましたが、品揃えの拡充、商圈ニーズに合った商品展開およびゾーン化の推進により、地域のお客様からより一層ご支持をいただける店づくりを行いました。

以上によりまして、株式会社ヤマザワの店舗が山形県内42店舗、宮城県内19店舗、よねや商事株式会社の店舗が秋田県内10店舗となり、スーパーマーケット事業の合計店舗数は71店舗となりました。

この結果、スーパーマーケット事業の売上高は239億1百万円（同5.6%減）となりました。

ドラッグストア事業におきましては、地域のお客様の「生活の質」の向上に貢献し、快適な生活をサポートするべく、販促活動の強化に取り組むとともに、全社的なコスト削減活動であるトータルコストリダクションを推進し、全社一丸となって経費削減活動に取り組みました。

この結果、ドラッグストア事業の売上高は32億64百万円（同9.9%減）となりました。

その他事業におきましては、惣菜及び日配商品を開発製造して当社グループへ納品しており、スーパーマーケット事業との連携を密にし、安全・安心で美味しいオリジナル商品の開発を行ってまいりました。

この結果、その他事業の売上高は1百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ8億42百万円減少し、500億59百万円となりました。これは主に、現金及び預金が減少したためです。

負債は、前連結会計年度末に比べ10億35百万円減少し、211億34百万円となりました。これは主に、短期借入金が減少したためです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ1億92百万円増加し、289億24百万円となりました。なお、自己資本比率は57.7%となっております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年2月期の連結業績予想につきましては、2021年4月12日の「2021年2月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表いたしました内容から変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,716	6,763
受取手形及び売掛金	700	816
商品及び製品	3,868	3,905
仕掛品	0	0
原材料及び貯蔵品	106	107
その他	1,615	1,178
流動資産合計	14,008	12,772
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	16,487	16,986
土地	12,842	12,836
その他（純額）	2,624	2,299
有形固定資産合計	31,954	32,122
無形固定資産	1,210	1,306
投資その他の資産		
その他	3,780	3,922
貸倒引当金	△51	△64
投資その他の資産合計	3,728	3,858
固定資産合計	36,894	37,287
資産合計	50,902	50,059
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,674	7,375
短期借入金	3,400	2,900
1年内返済予定の長期借入金	164	157
未払法人税等	642	303
賞与引当金	294	—
役員賞与引当金	0	—
ポイント引当金	670	653
商品券回収損失引当金	73	73
その他	5,343	5,783
流動負債合計	18,265	17,247
固定負債		
長期借入金	695	658
退職給付に係る負債	425	421
資産除去債務	1,197	1,223
その他	1,586	1,584
固定負債合計	3,905	3,887
負債合計	22,170	21,134

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2021年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,388	2,388
資本剰余金	2,208	2,208
利益剰余金	24,173	24,382
自己株式	△70	△70
株主資本合計	28,701	28,909
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8	△6
退職給付に係る調整累計額	6	6
その他の包括利益累計額合計	15	△0
新株予約権	15	15
純資産合計	28,732	28,924
負債純資産合計	50,902	50,059

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年5月31日)
売上高	28,934	27,167
売上原価	20,642	19,366
売上総利益	8,291	7,801
販売費及び一般管理費		
給料	2,741	2,690
賞与引当金繰入額	226	300
役員賞与引当金繰入額	0	—
退職給付費用	28	33
ポイント引当金繰入額	675	653
減価償却費	588	613
その他	3,093	2,972
販売費及び一般管理費合計	7,353	7,262
営業利益	938	538
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	—	4
データ提供料	6	6
その他	11	15
営業外収益合計	19	26
営業外費用		
支払利息	4	4
貸倒引当金繰入額	—	12
その他	0	0
営業外費用合計	5	17
経常利益	952	547
特別損失		
固定資産売却損	—	0
固定資産除却損	6	1
特別損失合計	6	2
税金等調整前四半期純利益	946	544
法人税、住民税及び事業税	381	274
法人税等調整額	△83	△85
法人税等合計	297	188
四半期純利益	648	355
親会社株主に帰属する四半期純利益	648	355

(四半期連結包括利益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年5月31日)
四半期純利益	648	355
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17	△15
退職給付に係る調整額	△1	△0
その他の包括利益合計	15	△15
四半期包括利益	664	340
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	664	340
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について重要な変更はありません。